

## トピック展「埼玉のきのこ」開催報告

木山 加奈子

令和7年10月7日（火）から令和8年1月25日（日）まで、トピック展「埼玉のきのこ」を開催しました。きのこ（菌類）は非常に多様性の高いグループで、埼玉県内だけでも環境に応じて様々なきのこが見つかっています。本展では、その多様さの一端に触れ、身近な存在であることを感じていただくことを目的として、なるべく多くの、そしてなるべく様々な色や姿のきのこの写真を展示し、栄養形態や生育環境、県内の分布などを紹介しました。

展示した写真はすべて、職員が県内で調査をする中で愛情込めて撮りためてきた、とっておきの写真です。また、マツノウジやキクラゲ、アミガサタケなどは、博物館敷地内やその周辺というごく身近な環境で撮影した写真です。雨上がりに少し散策するだけでも、多くのきのこに出会えますよ。

ケース内では、「毒きのこに要注意!」「埼玉の愛されきのこ」「絶滅危惧種のきのこたち」という3つのトピックについて、レプリカや複製原画も交えて紹介しました。「毒きのこに要注意!」では、毒きのこ御三家の一角として知られるクサウラベニタケと、秩父で「いっぽん」の名で知られる食用のウラベニホテイシメジを紹介しました。この2種は同属で姿も生育環境もよく似ており、毎年中毒事例が報告されています。「〇〇なきのこは食べられる」という近道はなく、安易に野生のきのこを食すのは大変危険であることはくり

返しお伝えしていきたいところです。「埼玉の愛されきのこ」では、「だいこく」の愛称で親しまれてきたムレオオフウセンタケなどを紹介しました。「絶滅危惧種のきのこたち」では、昨年改訂・発行されたばかりの最新の埼玉県レッドデータブック植物編に載っているきのこを紹介しました。この中には、秩父出身で世界的な冬虫夏草研究の権威、清水大典氏が記録した冬虫夏草もいくつか含まれます。本展では、そのうちクサギムシタケについて、清水氏の細密画の複製を展示しました。清水氏の細密画は非常に緻密に描かれていることで知られており、複製原画でもその緻密さ、美しさを感じていただけたのではと思います。

また、本展期間中に姉妹館の県立川の博物館では企画展「埼玉の食と菌類」を開催していました。どちらもきのこつながり！ということで、コラボクイズラリーを開催しました。景品はきのこ観察の際に、傘の裏を見るのに役立つ缶ミラー（写真2）です。好評につき景品は全て配布できました。景品を受け取った皆さんが、このミラーと一緒にきのこ観察を楽しんでくだされば、担当者としては嬉しい限りです。面白いきのこを見つけたら、ぜひ教えてくださいね！

レッドデータブックに載っているきのこについても、情報不足（DD）の種がとても多いので、情報をお寄せいただけると嬉しいです。

（きやま かなこ・学芸員）



写真1. 展示の様子



写真2. コラボクイズラリー景品の缶ミラー